

第2回 第5期雄武町総合計画（後期基本計画） 策定審議会 議事録

【日 時】 平成24年 7月 27日(金) 19:00～21:15

【場 所】 雄武町地域交流センター1F 多目的ホール

【出席者】 委員 嘉島 壽 委員 佐々木伸行 委員 太田 修二 委員
高橋 信一 委員 菊地 千秋 委員 高橋 進 委員
田口 洋 委員 石井 友蔵 委員 本多 芳秋 委員
湯浅 純人 委員 阿部 正吉 委員 工藤 正孝 委員
今 哲 委員 麻生 賢一 委員 高宮 均 委員
小林 康夫 委員 木元 之生 委員 目黒佐都美 委員
中橋 綾子 委員 掛川原夕子 委員

株式会社ぎょうせい総合研究所 主任研究員 今中 英二氏

町 事務局～佐々木財務企画課長 大水企画調整係長
檀山企画調整係主査 小俣企画調整係

- 【会議次第】
1. 開会（町民憲章朗唱）
 2. 会長挨拶
 3. 報告事項
(1) 第5期雄武町総合計画前期基本計画の進捗状況
 4. 協議事項
 5. その他
 6. 閉会

- 【配布資料】
- ・第2回雄武町総合計画（後期基本計画）策定審議会議案
 - ・第5期雄武町総合計画前期基本計画の推進状況
 - ・ワークショップ手順書
 - ・雄武町勢要覧資料編

【議事録】

1. 開会

(佐々木財務企画課長)

定刻になりましたので、第2回雄武町総合計画策定審議会を開催いたします。本日はお忙しい中また夜分にも関わらず、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

会議に入ります前に、町民憲章の朗唱を行いたいと思います。私が5つの誓いを一条ずつ読み上げ、先導いたしますので、皆様には、これに続き朗唱をお願いいたします。それではご起立願います。

(町民憲章朗唱)

—全員で町民憲章を朗唱—

(佐々木財務企画課長)

ありがとうございます。それでは会議に入ります前に、本日の第2回審議会に出席されます株式会社ぎょうせい総合研究所今中主任研究員をご紹介します。今中主任研究員は、今回の後期基本計画の策定や保健福祉等の本町の様々な長期計画に携わっておられます。

(今中主任研究員)

今中と申します。よろしくお願いいたします。

(佐々木財務企画課長)

今中研究員には、後ほどワークショップの手順についてお願いしております。それでは、この先は会長の進行にて進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

2. 会長挨拶

(嘉島会長)

お晩でございます。日中お仕事でお疲れのところ、大変御苦勞様でございます。本日は第2回の審議会ということでございますが、今回の内容というのは2つありまして、1つは前期計画の事業の説明とそれに係る推進状況ということでございます。

もう1つは、町の発展振興に係る考え方を皆様方に気楽に楽しみながら意見を出しあってもらおうワークショップとなっております。

2時間程度の会議になると思いますが、有意義に進行していきたいと思いますので、宜しく申し上げまして挨拶いたします。

3. 報告事項

(1) 第5期雄武町総合計画前期基本計画の進捗状況

(嘉島会長)

それでは議案に基づきまして、さっそく会議に入っていきます。議案の3番の第5期雄武町総合計画前期基本計画の進捗状況ということで、事務局の方から説明があります。

(大水企画調整係長)

それでは報告事項といたしまして「第5期総合計画前基本計画の推進状況」についてであります。本資料につきましては前期計画の施策評価等を参考に、本日同席されております(株)ぎょうせいさんと私ども事務局とで取りまとめたものでありまして、役場内部における前期の施策評価が現在、最終調整中ということで、資料的には「未定稿」の扱いとなりますので、あらかじめご了承くださいと思います。

本日の議題のメインはワークショップによる協議ということになりますが、はじめに10分程度時間をいただいて、本町は何より第1次産業がベースの町ということで、まず資料のほう1枚めくっていただきまして、左側の目次でいきますと、政策目標1「はつらつ雄武」基本施策5「観光の振興」までに絞って、これまでの状況及び今後の課題等、報告をさせていただきます。

まず右側1ページ。第5期計画の概要ということで、これにつきましては前回の会議で触れておりますが、計画の期間は平成20年度から29年度までの10カ年を基本構想期間としまして、今回は後期5カ年の基本計画を策定するため、町民の皆さんに参画いただき本審議会を立ち上げたところでございます。2～3ページについては第5期計画の「政策体系」ということで、5つの政策目標、24の基本施策、83の単位施策で構成されていることを示したものであります。

次、4ページについては「基本構想」についての途中評価ということで、まず人口の部分ですが、前回第4期の計画では人口増を目標とした計画でしたが結果は大きく減少と、これを踏まえまして、第5期では現実的に人口は減るだろう、という予測のもと、平成29年で5,000人という目標設定をしました。しかしながら平成22年度の国勢調査で既に5,000人を切りまして、このままのペースで平成29年度を迎えると4,300人台という再推計値となっております。第1回会議で会長がおっしゃられたとおり「なんとか人口減に歯止めをかける施策をつくりたい」、これが後期計画の大きなテーマになろうかと思いますが、国全体が人口減少時代を迎えまして、非常

に厳しい状況ですが、最低限、減少のカーブをゆるめる施策が必要と思われるところであります。次に5～6ページの政策指標でありますが前回会議の資料の中でおおむね説明しておりますので省略いたします。

続いて7ページ以降が本題の、政策目標1「はつらつ雄武～地域産業の振興」ということで、まず基本施策1「農業の振興」についてであります。指標的には生産額・搾乳戸数とも減少しておりますが、生乳生産量は横ばい傾向ということで、1戸当たりの生産量は伸びている、という見方もできるかと思えます。単位施策の評価では、(1)土地基盤の充実では道営かんばい事業等の推進、(2)担い手強化の部分では、TMR センター設置や新規就農環境の整備が今後の検討課題、(3)生産技術の向上では、一部ロボット搾乳導入の実績がみられ、また優良雌牛判別生産なども期待されており、今後も多様な技術向上に向けた取組みが求められている、(4)安全安心な農業の振興では、家畜ふん尿の有効利用がおおむね計画どおり進んでおります。(5)農業による地域の活性化では、町が試験的に取り組んでいる部分ではあります、カラフト豆の栽培といった新たな研究も進めているところです。

次の8ページには、参考までにT P P 関税撤廃の概要を掲載しております。左下のコメントのとおり、政党レベルで賛否が分かれる中、有力団体では経団連・商工会議所等が推進、町村会やJA 中央会、医師会も反対の立場をとっている状況です。

9ページ、基本施策2「林業の振興」であります。指標的にはおおむね計画どおり、という状況。単位施策の評価では、(1)生産体制強化のとしましては、近隣の森林組合と協定を結んで「森林認証」を昨年度取得されたということで、地域材のブランド化が期待されるとともに、(2)多面的機能の発揮では北の魚つきの森整備など、水産業にも効果が期待できる事業を推進しております。

基本施策3「水産業の振興」としては漁業の性格上、毎年の生産に波がありますので5カ年平均で実績を示したところ、生産額は良好、ホタテも近年は15,000トン体制で安定化が図られております。単位施策の評価としましては、(1)水産資源の保護・増大の面では、ホタテ生産拡大の一方でサケマス等の回帰率向上等、増養殖技術を高めるとともに、次のページ、毛ガニ・ウニ等の資源管理を徹底する等の取組みが求められているところです。また、引き続き各漁港の整備により経営基盤の強化を図るとともに、(3)消費流通の拡大では、メジカに次ぐ「雄宝ブランド」、セイコーマートで「雄武産利尻昆布おにぎり」が製品化されるなど、消費者の目に見える形で付加価値向

上が図られたところであります。

基本施策4「商工業の振興」については、オホーツクニチロさんの稚内への機能移転等の大きな影響もあって、出荷額等、厳しい指標評価となっております。建設業やサービス業就業者数も人口同様に減少基調にあります。単位施策評価では(1)事業所の体力づくりへの支援といった部分では商工会との連携による支援を継続してきた中で、人口減やわが国の経済低迷など内外的要因で経営環境は総じて厳しい。ですが水産品・加工品の海外需要が拡大傾向ということで明るい兆しもございます。こうした中、右ページ(3)住民を支える商店街づくりへの支援の中で、移動販売事業がスタートしたことは単に商品販売だけでなく、御用聞き的な機能もあり、非常に評価できる部分であると思いますので、今後の成果が期待されるところであります。

続きまして基本施策の5「観光の振興」についてであります。観光客数、イベント参加者数等、毎年天候によって大きく変動しますが、総括すると「横ばい」といったところであります。単位施策の評価(1)雄武観光の売り込みでは、地道な取り組みによりまして「日の出岬温泉」「産業観光まつり」「韃靼そば関連商品」など認知度向上に努めてきたところです。それから皆さんご存じのとおり、今月7月1日から、紋別一羽田間の町民助成制度、これは関東方面から来る観光客も助成対象に含めておりまして、約1カ月が経とうとしておりますが申請件数は約50件、7:3で観光客からの申請が多い状況でありまして、次のページ(2)雄武観光の魅力化、これが今後の重要施策になるのではと感じております。恒例となった「うまいもんまつり」も道外客をターゲットにできますし、既存の観光施設、牧草地や漁港といった風景は都会の方には新鮮に映ります。剣淵町のアルパカ牧場の記述がありますけれども、東京から足を運んでくれるような成功例でありまして、実際グーグルで「アルパカ」と入力した時点で「剣淵町」が候補にあがります。こうした背景からもソフト重視の観光、一次産業と融合するような観光が注目されつつありますので、雄武町にとってもプラス材料であるというふうに捉えることができるかと思えます。

次の政策目標2「ぬくもり雄武」以降につきましては、次回以降の審議会・専門部会等で順次説明する場面も出てくると思いますので、今回の報告事項は以上です。

(嘉島会長)

ただいま推進状況ということで、施策目標が5つある中の第1次産業と商

工観光に関わることについてご説明いただきました。残りの部分につきましては、後の審議会で報告するというところでございますが、今回の報告の中で質問等がございましたらお聞きしたいと思います。

(高橋（信）委員)

資料の中の水産業の振興で水産業の活性化を図るという記述がありますけど、水揚げというのは限界があるし、年々上下します。前年度はかなり良い結果でありました。ただこれがいつまでも続くのかといたらそうではないですね。だから水産加工の振興を町としてどう捉えていくかだと思います。1番大事なことがこの資料の中に明記していないのではないかと思います、町としてはどう考えているのですか。

(佐々木財務企画課長)

今日お配りした資料は前期計画の総括といった内容で、資料を抽出しました。今後どういった取り組みをしていくかだとか、こういった方向でいければ良いという部分をこれから行うワークショップの中でご意見をいただきたいと考えております。従いまして、それぞれ皆さんの想いをワークショップ形式で出していただいて、それをまとめて1つの方向性をもった形の中で考えていきたいと思っています。そして、その方向性が定まった段階で各所管係がそれを実現可能にするための施策を出していくという形で進めていきたいと考えております。

(高橋（信）委員)

それからもう1つ、雄武町の計画の中で今は後期基本計画の策定ということですが、現在も計画の中にありその中において、色々な意見が出た場合にはそれを受け入れる又は変えていくという考えはあるんですか。

(大水企画調整係長)

本基本構想は10年間でありますが、1区間10年ということは、時代の流れの中にありますので、前期の反省点や評価に基づき、後期は目標又は指標を立てて、それに向かっていこうという考えであります。

(嘉島会長)

他に何かございますか。時間の関係もありますので、報告事項はこれで終わりまして、ワークショップの方に進めて参りたいと思います。

4. 協議事項

(嘉島会長)

それでは、協議事項のワークショップの方に移りたいと思います。説明を今中主任研究員にお願いしたいと思います。

(今中主任研究員)

先程ご紹介いただきました株式会社ぎょうせい、ひらがなでぎょうせいと書きます。法律関係の出版社で、まちづくりの研究員をしております今中と申します。よろしく願いいたします。雄武町に初めて参りましたのが平成13年で今から11年前になります。それから何度かお仕事をいただきました。当時から見ても全然変わっていない所もありますし、今日も栄丘の小学校を見てきましたけども、あの施設も有効に活用されたらいいなとか、漁港も拝見しましたけども、知らない間に立派な防波堤ができていました。今は漁業生産額がここ何年か1万5千トンと調子がいいんですが、漁協さんあるいは町の計画では2万トン目指すというお話だそうで、非常に明るい内容かなと思います。この計画が作られた5年前も少しお手伝いしてたんですけども、その当時は、平成の大合併というのがありまして、町の存続について議論してまして、雄武町としては「優れた地域産業がある自立した町だ」というようなことを選択されたことが非常に懐かしく思っております。当時はそういったことがテーマでしたから厳しい財政状況で、非常に事業が絞られていた時代でした。そういう訳で、雄武町はホームページにも載せていますけども、事務事業を全部洗いだして、その事業を続けていくかどうかをきっちり選別していくということを毎年繰り返しています。そこまでやっている市町村は、全国で1700くらいある市町村の内200くらいだと思います。非常にきっちりやられている町だと思う反面、今回の後期基本計画策定のテーマでありますけども、住民参画が弱いと思います。町役場の方も思っていますし、私らこういう仕事をしていてもそう思います。今は住民の皆さんとの協働という言葉が流行っていますけども、住民の皆さんと行政と一緒に色々な事を考えていく、先ほどおっしゃいましたけども、住民の皆さんの方から提案を出して、それを町が一緒になって取り組んでいくというのが他の町と比べて弱いのではないかなと思っています。町としてもそれは課題であると思っています。今日と次の審議会をこういう形で委託しておりますのも、住民の皆さんが自由活発にご意見を出していただいたものを計画に活かしていきたいからという思いからであります。最終的には町の名前で計画書が出来上がるわけですけども、そこに住民の皆さんの本当に柔軟な発想をどんどん入れていきたいと、こういうことでございますのでよろしくお願いいたします。

(ワークショップ)

ー今中主任研究員から説明の後、ワークショップ開始ー

(今中主任研究員)

お時間となりましたので、各班それぞれ発表の方をしていただきたいと思います。最初はホタテ班お願いいたします。

(小林委員)

これからホタテ班の発表を行いたいと思います。ホタテ班はそれぞれ雄武町の強み・弱みといろいろ出たんですけど、最終的に煮詰まったのがタイトルである「雄武町をPRして人口を増やそう」ということです。これが1番悩んだところですよ。なぜかという雄武町の一番心配している所は、人口が減少しているところをどうやって歯止めをかけるかです。人口を増やすことで産業も盛んになり、医療又は教育も充実するのではなかと思っただけで考えた。その中で人口を増やしていくにはどうしたらいいか、それはいろんな意見が出たんですけども、例えば住みやすいまちづくりにはIターンやUターンをどんどん取り組んで考えていく。それと人口の減少を防ぐには、就職先やその他働く場所の充実を図る。そして、人口を増やす方法として今盛んな代替エネルギーを利用した住みやすい町づくりをする。このような意見が色々出ました。やはり結論といたしまして、人口を増やすということイコール住みやすい町であり、雄武町をもっと活発にできるということでもあります。以上です。

(今中主任研究員)

ありがとうございます。今のホタテ班さんについて何かご質問や補足等ございますか。ないようですね。では引き続きだったんそば班をお願いいたします。

(太田委員)

だったんそば班は、未来の雄武で今の雄武の弱みを改善していければ住みよい町になるのではということで「未来の雄武を考える」をテーマとして、雄武町の自然・産業・町民の意識・観光・行政・教育に関しての意見をまとめました。

雄武町の自然に関しては、地元に住んでいるとなかなか地元の良い所というのは見えないんですね。余所から来た人は「なんてすばらしい景色なんだ」と思うわけで、雄武町のそういった自然をもっと自慢していいんじゃないかという意見が出ました。

産業に関しては、一次産業における漁業では、毛ガニやあきあじやめじか

といった一流ブランドのブランド力のあるものが前浜でとれるということで、我が町の自慢になるという意見も出たんですけども、その逆に水産物は確かにブランド力はあるんだけど、それに対する付加価値をもっと高めてはいけなかと、そして、2次3次と雄武町で加工して良質な製品を作ることが可能ではないかといった意見も出ております。ですから資源を無くさないために、育てる漁業も併せて考えていかなければならないんじゃないかという話でございます。

そして、観光ですけどもこの自然を活かして何か体験型の観光というのをもっと考えていいのではないかと思います。現状ではホテル日の出岬が1番目立って目玉みたいなのがございんですけども、もっと集客するためにしっかり考えて、建ったものだけではこれからは勝負できないということであります。

また、町民の意識についてですが、行政ばかりに目がいきますが、我々町民は一体どうなんだといった時に、雄武町民として行政と一緒にやるという一体感がちょっと欠けるのではないかという意見があります。それに伴って、働く場所がなく若者が外へ出て行ってしまうため、そういったことについても考えていかなければならないということです。これは行政に対して出た意見ですけども、なんとなく行政と一般町民との隔たりと言いますか、垣根があって若干関わりが薄いのかなという意見もあります。町と行政の協働についてももっと親密にしていなければならないと思います。

子育てについてですが、保育所の環境が良くなったということで非常に満足しているということでございます。また、児童センターも実に快適であります。しかし、子供が遊べる公園が少ないのではないかと、また病院が不便であるという意見もありました。小さい町ですので、医師の充実度が低いです。その他に今夏休みにプールを使用したいが、気温の問題等で使い勝手が悪い。ここで提案なのですが、現存のプール施設を維持管理するよりは、紋別等の温水プールへ定期的にスクールバス等を使用して行ってもらう方が良いのではないかとという提案がありました。多少取り留めがないんですけども、だったんそば班はこういった意見が出ました。

(今中主任研究員)

ありがとうございました。総合的にですね、いろいろ分析していただきました。引き続き毛ガニ班にお願いいたします。

(工藤委員)

毛ガニ班のテーマはここに書いてありますけども、資源を活かせということで毛ガニ班の出だしの意見といたしまして、まず2点、人口減少をどう止めるかと雄武という名前を思いつくのは何かということでございます。雄武

町には毛ガニ・めじかと色々ありますがどれもこれといって特段ないですね。だから人口減少の問題と雄武のブランドをより強化するために資源を活かせといったテーマで取り組みました。

まず強みとしては、産業では地域ブランドとか一次産業が強い水産加工業だとか森林認証を受けているだとか色々あります。次に地域特性として、大雨や地震といった自然災害が少ない。その他には雄武高校の野球部が強いだとか再生可能エネルギーが考えられるだとかありますが、その中でこれといってあるなしに関わらず、特に産業観光地域特性に重点的を置けばいいんじゃないかと思います。

逆に弱い点としましては、トップセールスです。トップに立つ人たちの繋がりが薄いのではないかと思います。だから雄武がきちんとアピールできていないのではないかという意見が出ました。自分達の企業や会社といった団体は利益を生んで税金を払うということも必要なんですけども、トップに立つ人間同士の関わりが薄くて機能していないんじゃないかというのが弱みという意見が多く出ました。あとは雇用ですね。人口減少に対して働く場所が少ない、もしくは期間が限られているだとかそういう雇用対策について、人口減少の歯止めが効かないんじゃないか。その為には、雇用対策協議会のようなものを色んな角度の分野から集めて、協議することでサポートしていく、またはバックアップしていけばいいんじゃないかという意見がありました。

あとですね、自然的や地理的な問題もあるんですけども、やはり1時間圏内の距離に10万都市くらいの都市が近くにないので物流が悪い。ちょうどオホーツク海側で中間的にあるし、オホーツクの中でも網走管内と宗谷管内の端だとか。そういったことから、地理的な面で流通が整っていないのではないかという意見もありました。改善策としましては、紋別・名寄・枝幸のどこも距離がそんなに変わらないというのであれば、一番強化したいのは雄武-名寄間です。もっと道路整備をして物流に対して流れをスムーズにさせた方がいいのではないかと思います。もしくは今雄武町でしていますけど、羽田-紋別間の航空機利用誘致の補助金は継続してもっと東京等から人を呼び込む、もしくは物流を強化した方が良くないのではないかと思います。あと土地の利用を活かしきれてないんじゃないかと思います。まだまだ有効的に利用できる場所や物、施設があるのは活かしきれてないんじゃないかという意見があったので、このことから毛ガニ班は特に資源を活かして、雄武というブランド「雄武といえば」というものを作り、人口減少に歯止めをかけたいと思いました。以上です。

(今中主任研究員)

はい、ありがとうございます。最後にめじか班でございますね、よろしく願いいたします。

（小俣企画調整係）

めじか班は、地域資源を活かしたまちづくりをテーマとして、主に自然、産業、人口について話し合いを行いました。まず雄武町は自然に恵まれた町で、海と山に囲まれており、また交通量も少なく静かな町であるといえます。しかし、世界規模で自然破壊が行われているようにこの自然も永遠に続くわけではありません。よって雄武町の土地柄等で難しい面があるとは思いますが、自然エネルギー等への道も考えていかなければならないと思います。

次に産業についてですが、雄武町は漁業や農業といった優れた一次産品が数多くあり、食の宝庫であるといえます。その反面優れた一次産品にさらに付加価値を付けるような取り組みがされていないという意見が多くありました。よって雄武町としては、加工業界への経営基盤強化が必要であると思います。

最後に人口についてですが、雄武町も例外なく少子高齢化の道を歩んでいると思います。理由といたしましては、雇用の問題や住居の問題または人口減少に歯止めをかけるような政策や取り組みを今までやってきていないのではないかという意見がありました。先に自然と産業についてお話ししましたが、この自然・産業・人口というのは全て繋がっているものでないかと思います。雄武町に観光にくる方はほとんどは雄武町の景観について感心します。自然を守るとは雄武町の魅力を維持することであり、それは移住者の多くが雄武町に憧れを持ち、ひいては人口の減少に関わってくるのではないのでしょうか。産業の加工業界への基盤強化も同じで、何か新しく一次産品を加工した商品が開発されれば、その仕事をする人及び企業が生まれ、それは雇用の効果を生み人口の減少に関わってくるのではないかと思います。この人口減少に対する改善策としましては、人口を増やす又は減少を食い止める方法を考えるのではなく、雄武町の魅力を維持・向上させていくことで、人口減少についても改善されていくのではないかと思います。結論といたしましては、雄武町はこれから豊富な地域資源を上手く使うための工夫をしていくことが大事だと思います。以上で発表を終わります。

（今中主任研究員）

はい、ありがとうございます。4班全てに発表していただきましたが、皆さんだいたい同じような話かなと思います。人口減少の問題が1番難しいと。それから産業については、活気はあるけども加工や流通の面で少しハンデがあると。1つ出てくれば色々と変わっていくんでしょうけどね。韃靼そばは初めて私が来たときはなかったですし、道の駅もお店ができて、町の顔になったのではないかと思います。これを今後雄武の物を増やしていくとか、或いは冬の間もやるだとか、次の目標が出来たんじゃないかなと思います。今日私は保育所の方も見させていただいたんですけども、雄武にこんな

に子どもたちがいたんだっていうくらい活気があって、スペース的にも真ん中に共有スペースがあって、開放的なつくりだと思いました。自然は最大の地域資源ですね、活かしきれてないと思います。雄武町って他所からみたら1番北海道らしい町だと思います。札幌近郊はあんまり北海道らしくないですね。やはりオホーツクというのは、漁業や農業、自然といった点から北海道らしいと思います。この何もないというところが他所の人にはうけるのではないかと考えています。そして、住民の方と一緒にになって味わっていただくような仕掛けができれば非常に魅力的な観光の町になるのではないかと思います。

今日は皆様のおかげでほぼ時間どおりに終了することができました。今日いただきました意見は総論といたしまして、今後提言書を作っていく中で盛り込んでいきたいと思っています。次回も同じように1回完結のワークショップをさせていただきたいと考えております。次回は今回のワークショップよりもっと掘り下げて3つのテーマについてやっていただきます。1つは産業、2つ目は安心・安全といった福祉や防災といった生活全般について、3つ目は教育・子育てです。次世代を育てていくというのは大事なことです。この3つを班ごとに分けて進めていこうと考えていますので、希望する分野がある方はある程度考えてきていただけたらなと思います。以上でワークショップの方を終えさせていただきます。

(佐々木財務企画課長)

お忙しい中夜遅くまでありがとうございました。以上を持ちまして、第2回審議会を終わらせていただきます。